

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)と 紋枯病対策について

(1)スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策について

スクミリンゴガイの被害は田植え後約3週間までが大きく、この期間を乗り切ることが被害を抑えるポイントになります。下記を参考に、しっかりと対策を取りましょう。

田植え時期の対策

①物理的防除

1)侵入防止

取水口、排水口に侵入防止網(網目は9mm程度)を取り付け、水路からの新たな貝の侵入を防止します。ごみ等が詰まりますので定期的にごみを除きましょう。

2)捕殺

野菜くず、少し硬めのタケノコを畦畔沿いの水深の深い場所を中心に置き誘因すると食害が軽減されるとともに、捕殺しやすくなります。

3)卵塊の圧殺

ピンク色の時は水に落とすだけで駆除できます。ただし、ふ化直前の黒～白っぽい卵は水中でふ化可能なので、圧殺してください。



スクミリンゴガイの卵塊

ほ場の均平と浅水管理がポイント！

②耕種的防除(スクミリンゴガイ対策の基本)

スクミリンゴガイの移動や摂食には水が必要で、深水で管理することで被害が増大します。従って、水深をできるだけ浅く保つことで、食害を軽減することができます。理想は水深1cm以下です。夜行性なので夜間の水管理にも注意してください。

ただし、除草剤を使用する場合は除草効果を安定させるために水を溜める必要がありますので、除草剤の処理時～4日間は4cm程度水を溜めましょう。

③農薬による防除

前記対策では対応できずスクミリンゴガイの被害が多い場合は、薬剤防除が必要となります。農薬は移植後すぐ使用しましょう。

●スクミリンゴガイに対する薬剤例

名称	10a当たり 使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
ジャンボ たにくん	1～2kg	収穫60日前 まで	散布	2回以内	毒餌なのでスクミリンゴガイが食べないと効果がありません。
スクミノン	1～4kg	収穫60日前 まで	散布	2回以内	3日程度で水に溶けてなくなります。

(2) 紋枯病対策について

紋枯病は、葉鞘や葉、激発時は穂まで侵し、稲体の水分上昇を妨げ倒伏しやすくなる病気です。窒素過多や高温多雨条件で発生しやすくなります。

菌は土壌中やわらで越冬します。
そのため、昨年発生した圃場では、紋枯病に効果のある箱施薬剤を選択しましょう。



紋枯病の病斑

●箱施薬剤の例

	薬剤名	適用病害虫	使用量	使用回数	使用時期
紋枯病が発生しないほ場	防人箱粒剤	いもち病、もみ枯細菌病、イネミスゾウムシ、ウンカ類、ニカメイチュウ、コブノメイガなど	育苗箱1箱当たり50g	1回	播種時(覆土前)～移植当日
紋枯病が発生するほ場	フルスロツトル箱粒剤	いもち病、 <u>紋枯病</u> 、もみ枯細菌病、ウンカ類、イネミスゾウムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウなど	育苗箱1箱当たり50g	1回	播種時(覆土前)～移植当日

基肥一発肥料の切り替えについて (エムコート ⇒ Jコートへの切替え)

令和6年度より、環境にやさしい水稻被覆肥料として、プラスチック成分を減らしたJコートへ切替えとなっています。

10aあたりの施用量は同じですが、1袋あたりの入り量が変わりますので、ご注意ください。

★ エムコート2000(20kg/1袋) ⇒ Jコート2000(15kg/1袋)

～肥料を使用する前に、よく確認して、適正量を施肥しましょう！～